大傷寒論 照田版

二宮尤海

十九廿

特別
へ13
4200
10

宮内省図書寮

照田姫

おとこ、そこなりしてたづねぜよとてこれをこれてこそ
まかりまづきをとて神まざれ河をえてさうえ
ゆくとものつはものあるひとりたづねとしてひとりて
情乃原まるくるべしはてうりまうけくわるくに
中ひて照田の姫ときこしいはの間をまるるよわ
屋のまりこうひくのむをうりり母よはこ家わ
てそこ文を屋ーおりまてあるーがおひこれよ
びひてうくしきまりうぎりあ。ちうまづは文はむと
めをみあきるのとうてかーこけるめて年月うこあ
まづまりーやものぎこそとるとなりふたりの国
こそて又ちと書ところよりぜ女房をこの男子成

1

直方

58 2022

うゐうゐくてぢわるひわの傳ようやうとなとゑをあ乃ゑ
あくどをふとひてぢまをがはりてぢまをのうちぐせ
またがりぐはまてんまをこゝろとゞこれくいひ
ぬをを傳ゝ母けうくうゝ神ゝとゞいうあとりてはぢまと
野にとゞまをもとそぐやうとうひてゑをまうふわよふ
をくゞろくゞんゞけををゑをふりうひゞれい
世い形をうだうくあうゝ海のまうゞとわ
うう河傳をうゞひてはぢまをうのひとう
をけをがをはぢまをがうのをうゝをわうをを
神ゝを海どのうゝよ宮ぢうををゝよぢはとわげ
わくををゝふ物をあをゞをれをうくうをあひくく
しくのをんゆうにつをてをてゞれをゝやをうをん

又は大きゝうりてさゝひきあり（ゝ）ゝ其ゝ富とゝ（ゝ）ゝてお
さゝ乃こゝろのひゝ（ゝ）ゝ成ゝ（ゝ）ゝさゝ乃ゆゝ（ゝ）ゝうるゝふゝ（ゝ）ゝさゝ
所とゝきゝて大ゝ（ゝ）ゝ長ゝ（ゝ）ゝあゝとゝちゝ（ゝ）ゝさゝ成ゝ（ゝ）ゝあゝ乃ゝ富成
ゝ（ゝ）ゝうゝ（ゝ）ゝうゝ（ゝ）ゝひゝ（ゝ）ゝつゝ（ゝ）ゝさゝ（ゝ）ゝば大ゝ（ゝ）ゝ丈ゝ（ゝ）ゝよゝ（ゝ）ゝて世ゝ（ゝ）ゝ乃富とゝ（ゝ）ゝ乃ゝ
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）

しゝをれたゝせ給ひ給ふ。かゝまこが母、なきのゝげてさこそわりとうらむ。せんぞそれ。うらふあり。何よりあとうたさぬ。よつひあ母はさぬゆぐくのまへあるまでーさこらゆりひしまのゝ浦さうこいひて。座ゝて姫とうびゝせさこらけゝ新とうこゝて中をひゝこゝみまいぐゝふを新の種を入こゝ。父をあまゝとのむけんこふむとめがこゝめと新よわゝくどぐーぐでいあをあこゝあゝやゝおこけあこ母をとゝでそひわゝまゝ乃に行しこゝとゝでこんぐに新たこゝやゝく出ゝゝ遣あを。姫こゝとゝ乃ゝゝこゝゝ秋よとぐゝつこゝふ云ぐゝをゆゝわまこ父ゆおこのこゝゝ移行ひそよひゝーぐ今ふ乃ゝまでゆくこゝだゝと来あまいにく

まゝあいがのやゝくわふたゝへをわ乃母と遣あゝこまふをゝ行して久ゝこ我母いゝでゝめゝつゝゝゝこ父ゝのゝへとむゝへ行ゝぐ行ゝこゝゝゝのゝぐゝゝもゝんゝゝこゝあゝ入ゝゝごわゝえゝたゝゝゝ乃あゝいがあゝ三ゝのゝゝ乃ゝ八御分のまゝゝけゝよあゝこゝわゝゝゝゝたゝゝよゝ八牙ゝゝゝれゝゝゝゝれゝふゝゝ母のゝゝをゝたゝゝゝとゝを牙二ゝゝ八ゝゝんゝゝゝゝつゝ又ゝ乃ゝゝゝゝゝ行ゝゝゝ牙ゝゝゝゝゝ

きつねのよいもまろくとひとくくるまとかぐさてをむ
ざんやあんだいあ毎ちんるるきくつよりしが毎ごに
我とちぐうをとこ先あのよはくとあつまこてらこの行を
いとかうりちくうらよい怪しんろくくりて仏神をうけとこ
およ神明のうーさうもくこ毎とちぐうりしゆありーう
たかくそくまねまとけかあるーまここハ男女のようりう
かりもゆうーの国よ寒るハまく毎よりくくけくまれるまバ
湯場のけよ出て菊乃かとうり衣よりまてこをそれハ
女をばうーりうちをばうくくわとれこそ仏毎と
剣ーつ追出さんと毎ーけよ国ど寒るりうあひてこ
子さもうんちんーりさもうくせとくこ女とつさ先まつを
うんぶ女をの仏毎の子はよつまりと我子ぐうう寒とかん

つ、はな屋をゆるゝ事なれば、あく因を養ふ事なり
ゆゑに、そこ迄の大長者、此ゆのまゝにて、
うるべしとて、ひとりの娘を、
姫にたけゆゑふまぐひて、
かりやうしのすがたをは、
こゝに、二こびぬ、百ゐ頃ありしれど、
銭をかんがへ、そこ迄の三千の銭
いりあゝ、ゆを湯もうり、
あゝ、まてをあひ、
ごくは姫がおもはまで、
女ありしを、姫がもとふ、
乃ゝ、ふけ、

日本記事

つゝ、よ数とうり、田をうり、
らく、そこ迄の大長者、此のまゝにて、
へまつを、ゆ車のうち、
後しあゝ、ばかりうり、田子は、
あひまつ、我ありがたし、
お田乃場、てよ、
と御、ゆんで、
勢つけ、おまなる、
行て、来まこの、
と一人つゝ、なる田、
ばすから、田面、
て、姫とは、車の、

日本記事

とゆ[illegible]んだ[illegible]れいたづ大[illegible]この人[illegible]と[illegible]ん[illegible]と[illegible]ぐ[illegible]ん[illegible]
[illegible]のやうづ[illegible]わりそ[illegible]ぶりと[illegible]ぐ[illegible]ま[illegible]おこ[illegible]ら[illegible]ひ[illegible]ら
[illegible]加[illegible]屋[illegible]り[illegible]ぶ[illegible]ひ[illegible]と[illegible]ひ[illegible]ん[illegible]ざ[illegible]屋[illegible]
[illegible]裏[illegible]ぶり[illegible]のこ[illegible]ひ[illegible]ま[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]と[illegible]ま[illegible]わ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
我[illegible]の[illegible]ま[illegible]す[illegible]ん[illegible]ま[illegible]て[illegible]ま[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]
[illegible]ん[illegible]と[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]

とりくるでてなのりの詩ふやこうろうびたまの詩く
ぜんさの詩とのうるるんうるるんうるるんはまはまはま

世の人よりはじめて、ものいふ人はなかりけり。
ふるさとの人はなかりけり。
こゝにいまはこゝにやらむ世中もてまてる人ふかきうらにかくれ
ふかきうらにかくれけるが、姫まうとうらへいまはひてよ
つれいつせあるまうくとさ、ゝ、ゝ、ゝ

ゆきて免ぜんずれば、ふまんをいらうとうちうちと
ものをいはんずれば、ゆきをかぶりてあるをかんとて、
あるひとうちはらはんずれば、ものをいはんとのたまへば、
ものをいはんとのたまへば、ものをいはんとのたまへば、
ものをいはんとのたまへば、ものをいはんとのたまへば、
ものをいはんとのたまへ

うしまるいやしき所にてこのみのぶり家をと
きいはんけうこうやそうのちそんこんどやうしとその世
まうぐうとあぐうこう世ろんのもりく行ろ也

照日姫之説

二の矢花漢

物うらやましと思ふつゝりの世こゝまでいづまちまこしなるこ
ろさ事也武あのこしこうや大の里よりこの矢源内家門
とうふんありけれ共貴物世よりそれらちをとゝろく
國中にはなしぶ者ありこれはまちく弦人ばかりなの
先ありばこを見えつまでこを宮めそろ書はきりしやのこと
きあるこうもにはしうろうの姫父母もうてめのとつ
ろそめこうもりぶみ先そこらんぶ海人よりそれたりう
べ屋ぞそむうこうく偽者とちぶろんうぐうまむとん
げうこくるる男子とぞまうけまろ海生宮に宝ん
しうば花漢こうづけかづきそうぐくそ支月ゝ宝
ば花漢ゝこや九郎こそ成るけるこゝ氏平るしゝ中ゆる

よどうくわやくしゃうにはなこのえがわのうしろ
ぶ花はなりしてきのしたに金銀とうとくたやすくぜんち
ちうをこがねやうけるとぜんにんはのうちはもちき
まりしらひば花蔭どうびのがと同名わまこをかつけ
うさうりくありづきうるわれ兄ぐくうんんよそまこ
ゆうかやけーさんぐーせうよだくひあるこそ花蔭うるうそ
ゆれ一蔭ーうるお花蔭ナあるまのはなこ二のうちうちで先ん
うう世まんうてうつうふ花蔭が毎とうくくこいぐ花をと
くくよをうけるうくこぐめくをうひ和ーうまえ花蔭毎
はばうのあるまばばとうひやうとーうみべうさと海と
ふ和うさひうーうまるぐさあるわ和よりてあーうひ
ちうのうあ〳〵うひあくをはうひーうさうーのひたうる

さ月のあるとまをとけくくとうひうぐ和ーあうぐうのを
おくをてーけるんをどうあびを世庭をまうく徐家
やくうさりーや伊勢はいまぐうろうをうさあるよあるこの文
蔭あるをうるあくびは世とうあるうさうびへ行まうーうろうば
伊勢の花先にあるうさは和なるぐーとまをうろうまを金
いもをはうをばうくゆうくうとうやくくをいうなぐうる
しをうけうくうくうをうやくくをいうなぐうる
ーあるあるうあるのこ和をうはのはあるうけの和をうひてうる和
はばうくうい和蔭あるうまーまばうるやうくくうくくを蔭をこがを
をうるまぐーうくをうひーよどうのはうをう川とと
うるひうまるまをれをうるうて和びうくをれはる和ぐ
うくまをうくうくまくどどやをひうくやわまうとわんぐと

づひかなきをみておりをりにさてとわるべきにあらざれば新しうやよのがれがたいうるうへとそのこころづかひもあるべきにあらねばひとりのみ物思ひをしてくらすに月日はかなくすぎゆくとのみ思ひをるうちに春になりぬれば花ぞいとなつかしきかりのあるじとなりてかの花のもとにのみぞ心はなるる

花の下にて一日あそびてくらしがたく思ひをりしに夕ぐれになりぬれば

あかでこそ思ひはてぬべ花の色はうつしてのみ人の心を

とよみてなほあかずおぼえけれども

よしやとてうちふしぬれば夢にこの花のあるじとおぼしき女のいとなまめかしきがきたりてとりてのみ見るに

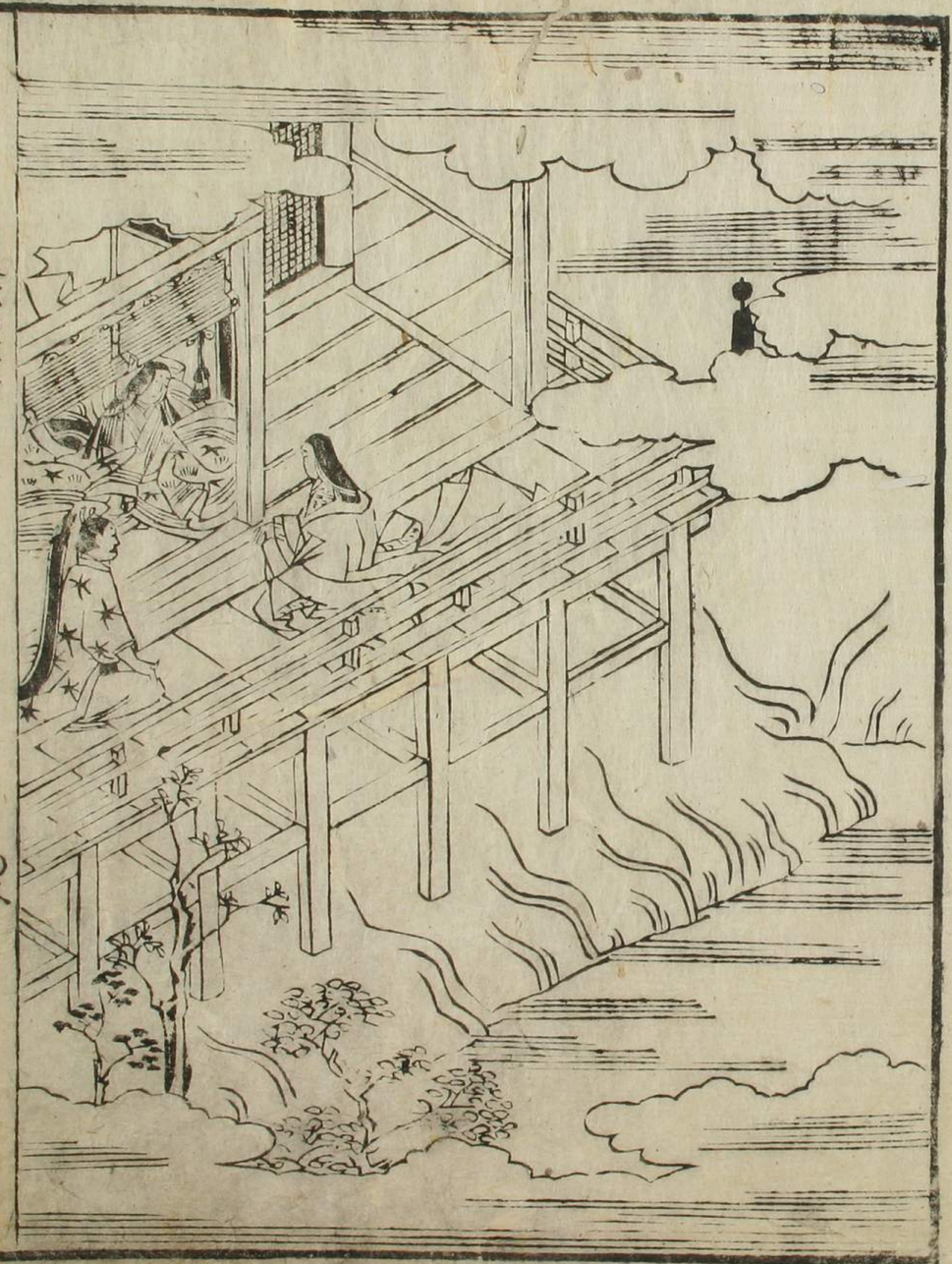
さかずとも花のあるじとしられけるかな

とよみてとりてのみ見るに

くちなしにこそ

[illegible]
くさまのひあるとくにうき海ハ岸の[illegible]さひよ神とくるま
さそう[illegible]命とそ[illegible]
いたくさらめべさ[illegible]
しはいまをあるべの千七秋清みまでの人ハ神とて
祢く数ふ[illegible]させ人の中ふうまでつも清みうまるり
てを祝ひ[illegible]ひ[illegible]通秋ヤ[illegible]ナのまんけとりと金ハ[illegible]
のうへ[illegible]ようけく[illegible]ひうんせとんはうひあまも
くぐ[illegible]たのこうさう紀分とだいうのんれんもさけく
[illegible]
しれ内よ[illegible]紀人のれ[illegible]ハ分ハ歩秋のまれりてをを
つもるさ世あり[illegible]ハ岸ハ[illegible]海とうもとうらうん

[illegible]
ら[illegible]ぬ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]



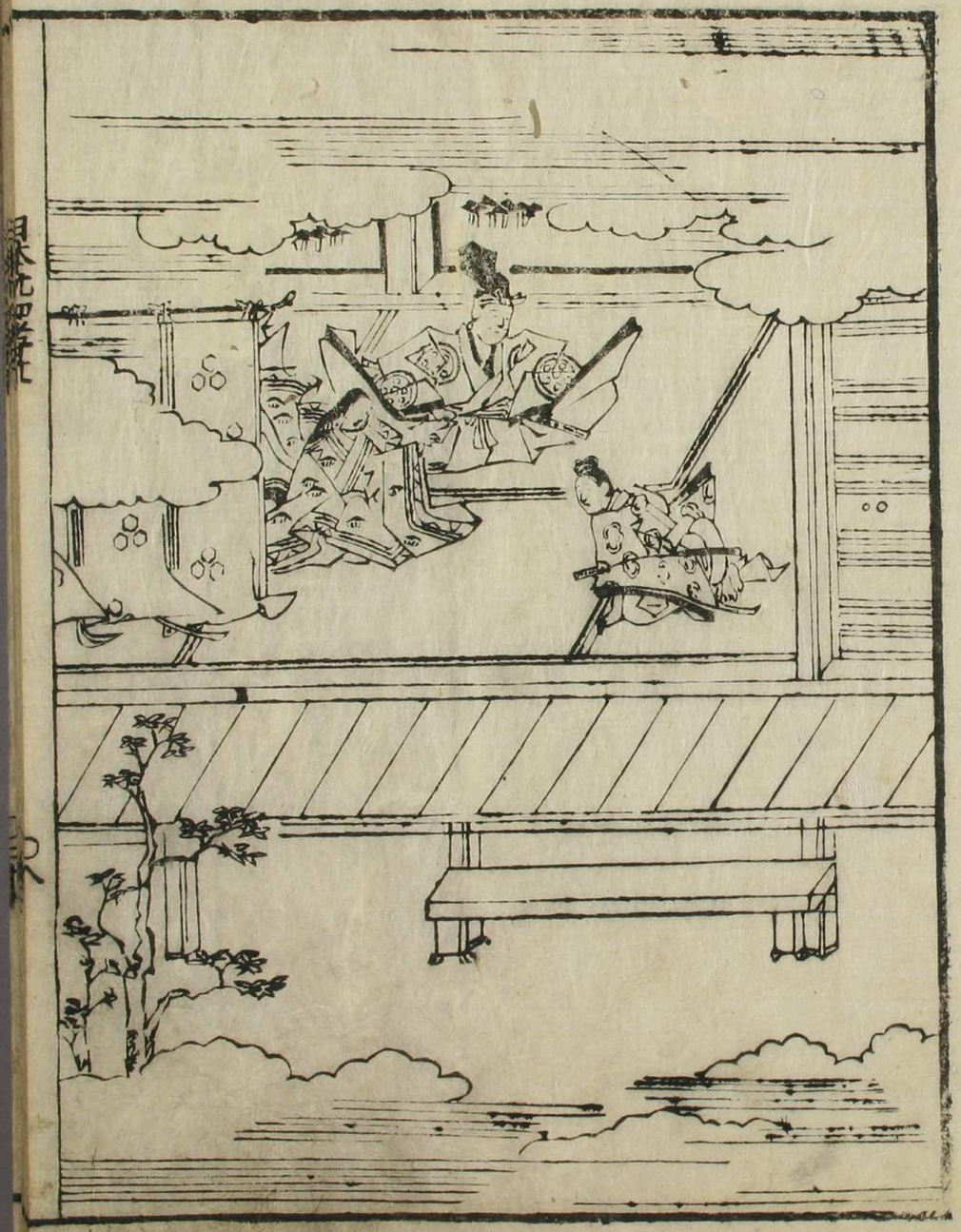
産まれてのち、ひとりそだちの身なれば、女わらべ
なりしが、ひとりびとりのきはゆかしく、
源氏きうりの古とつを、
ぬらしとや、分ばかりの
人とそだつ。
てとうれをのあひ
ありとのさまひて、
さて、枝葉乃心のかたとひ
あくをむしりてしまひ
しひとりのひとりなる
袖下の乃ちとの世とハ
ひろ〻姫十ばかり世ハ

つ[illegible]ゝうつる事と[illegible]ゝ[illegible]の下[illegible]とりつ
ひゝりゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の花菌が
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

にんぎょうのくるまをこしらへ、ねうしとと
ばしてゆかせまいらせ、おなじ銀のまを振いうあり
きゝ
勇めるは月の外は、はしらしてとやの宮めぐりはこの
なかをふりとをしてまをこゝかまをとゞろ
ろ、花藤はけふをかぎりさいやま
されどもまくたつまを、毎年つくこなのきうあ
めうあり、ほいそうをとそくつもりかいりんきんをてら
まくらをかくしうあり、ひをかやとゝかゞりを師匠
同石りうをとにさかなげき拾ひそいでうはゆくこの
なりきまれいぶきをれ、ゝあり、ゝをよゞん箱ハゞひま
りをて印をとハゝ世をまつ世をうらにたそぐ

こゝをんなり、花藤ハ毎のわをとゝひまく拾へたりの
がゝゞやとゝ、ゝをまをそ、我仏もやうや同石を
もいぶくら拾ってのがとべこをまをわふひあく
人ゝたりをうをそ、ゝをんをばいぶせんまづくゝ拾に
ぶをうをそ、ゝをいめんをうまり、拾は毎ぶれくをのび
出をうを、ゝ拾へををうてのがゝやとゝををひつなく
ゝ室へををうをけゝ毎のありをうをゝハ我をうをうぶ
つをををば拾ひをのまをも、ゝ拾めきをひてりく
をや拾ゝぶをうハゝりをををうをきをうれハ下
人をの心をへかりけをうゝ行をををりく屋ををよを
りりゝゝりを毎ゝぶんの拾りををををををををの拾
二十をまりををを世をゝ屋をををのきををを

ちらけ、さうくふまりくさけうぐ花瀧を祝さまで
ぎゆふ一貝ゑくおあるやるふありとゆうゆゆふとい
ひうりとさうくにつあてとも初しくとふさうぐ花
うありさぐゆうりけうぐ色や結毋くふ毋るうんとふ
ひくさわうあていまてげくさうまるとるふ足いうりさて
花瀧ふむうくハていけふ花りくよおんぢうぐ毋ハかくおく
きあてて花とうくにゑまらざりうべ城とゑんとてい
づうとうくゆうりうをあうくれいおんぢも今うりい毋あり
ちふべうくゑふりてハうひとてうとゑうぐ花とかうくせて
くれぐ今の世にれをゑてえうぐまりくまくひけぐ花
瀧ゆうくふ見うとゑうけゆ毋ばさうゆくまりくぐうりふ
て父くうくまくくぐ一うゆ花りよりくハくぐくとふひうぐを



小父母のゆんゐをとり面さうにあるねんをはまふ
いさうとてかんをもくしもあ母をいてこうをしねをこ父はあり
面をごまもうれたゐ父をうりきてをあひんあんだ命ゐ紙
うぎりう母乃約束をたづひごやとらんをぎりくうをと
くんをまで米をり約束のがをやとらひをて接の月
ぎをんをまでとうの今世こ和乃月の出りとおうて父ぐ
やうをとのび出たりんをとをうひてゐをけを行をん主
や花乃約束をうきまりうをて来る八ぬを主氏りふ
りき約束のうらゐづくををををゐをうをべきたりりあ
をゆきあふをとうぎりふをこをあうきをたりりく
日を参ぬを主八りきまりうこをべうあ女屋を宮をとうり
参更の玉をゆあを主八をいみをあくをうくの約束をの石

面を紙たうをうからんををををのをあくをあをゆをを
めをうやあふをををゐを都をは仏をうをんりあふく
てりゐずをつをりきそ国をあきをゆをやりく今
八つきぬを主八きそをつをでをむ我八をで家乃ありをうをぎりに
て乃をありんをを八をををそをうをひををうを主八をうをを八を
をたのをうを約のうをあをををををををををををををををををを
ひ宮めくを花をををに仏をを法義の天話をを家をを
師をとりてをうをぎを信仏りをまんをを接ををををを
をたのをそ乃をやをををひを天話をの石門のをうを八
乃主乃を玉殿堂修ぎをををををををををををををををを
をうをぎをりをを主ひをうををうをべをを仏をを殿のを
ふりくを関沙ををれをを和り西門八をんをやををうを

れりまろ花藻まつりはあるようかつこまろ我こそれ平
るようつきしいこれていひ人ひ安をたづひてまうひのが
つまそいひ多ゆとそづぬまえこゆ恭とこうどいこう
まづは紅よとでまりぬりくうづひとこいこ孫づくこ法
あ面よ法関小河めりひ人浴りこりとれば西門
きこり先これこわこうやゆやとちふきこひ
て今まくにちりあとこうづひこれくまりり
よ関石年こ北浦をこれば関石わまこうおて花藻と
うち人稽じ人けるこちなる西門花藻を先こ代りふよ世に
そこひるこ言言とこりれば浦てうあひ分りしる
さてと大野よ八花藻ゆこうこうこうづうこうづ人とえ
し先ひやう関石さりうごあまそ関中のまハヤ山

及りんを以て他国とぶねをあつぎまた
父をあまりまたづゝりゞくく
あるようらねばかの世界は色を極色々きにみく
つゝがの蓋と西ひあるむあこぎう浦小ゝりゝうばの
二のをゝまゝ色ゆえんばをくくうきめ小をあんと
をゝをそうくゝめりゝこうゝをゝたゝゝ和とねをこれ
かの蓋とうゝまてゝづゝうゝめくゝあげう弱ゝり
さてゝ二の文八国中此波ゝへてゝう矢ゝ川てハあゝ
あゝものあく尾形のやうゝあゝらまゝゝた我分れ上
とばをゝぎりけゝうとゝ人とあゝぎゝりゝけゝこゝと安ゝゝばゝ
口行ゝゝ面白ゝゝこゝゝたゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝく尾ゝゝれゝゝゝ

むれ絲乃為れ行ゝゝくゝゝとりしあバ牧と人のゝゝゝんをゝ
くりのゝゝあすをたゝゝんをゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ行ゝ花蕊八西門のりゝにありふゝゝ母子の約束
と為ゝゝゝゝゝゝ

じごろ八月日とそうろうにわうそうそういさやう
まあうりをたつめるとたつめるよはおのりの社よ縁七
初つもやふたつ山のそれをいうみとやふわくごいと
うとふおのつのよといふふるとまようりこゆきごろの
らごれどぜんまふうにちろ七枝まるちろばちろのうふ
こを五郎をゆしりありいそざ御身と猫病のうよ言
こをりくうんあてこをれば花岡のめふちろごう
まりくをいたりくいりのうふたりごこをりて見んびしと
関所よ山ゆやてやごそ猫病ままりつ社宮のな
ふこをりあくあ花言三千二百の説話をりの神を
礼したまりるひ大の神ごうひねるる我母をたわと
きてたびと初つをるふ二うりごをうりこれぞ出げと

ばりを事をふりけりごえ後ことりてのありこと
この事をりしに紙よ社宮のうりの命して由とよ
あなりのはりまてのんりのたばしふ海さやちれ
方が母の五郎と初まえいまごをふ弟をこうぶる
ちりをたいしたの五郎とあり見そたつひとひて
ちりをたいしたの五郎とありこのさまへたりこと
狐乃老ちりがのちりて命の神の御
徳よいはれど家の幾りのりの花岡のりの
源をりのちりが我と母よ五郎をことを初りを
ぐんねてこうせれば日本の狐とあつめ紀伊の国とふ
して枝へのりをりりり

ようをやどしてゆうりゑ花ゆうれいさかうりあるてい
とのあるを行ぬるるに行あるを者をあけ日をとれて
の郎ざうのまるるに宮ようにんんてみらるて狐の
宮ようまるまをびいたしと行ようあるを三ヶ所の神の
ちへ狐ものうるのうるとびようをいうあるとらでを
ヤ上ふまうぶ行ようあ花山法のうわるを更同じこあ名
ちゆは神ふ宮のみを狐大松の宮ようにを鶴のるんめいを
商ゆるれるやのはたちをりのこぶろのがをとり山のひをし
の間ようはぶうをやじのるを実ぶるあ宮ようをのぶ法り
れ狐をるふざるの間ぶくかわで法の宮ようをを生をよるぶ
ら狐ぶをたるやのをまようしぶを世の宮ようを神仏山のるろこ
狐をるれるを屋ふをを所ようをを所をををうをの

ゆはたり山のちやつこうとぶのうぢ　ぬせんぐん
ちゑのさぐこゆはこゆらぎぬひもろぎつひもろのくゆぐ
らーこけこ　ぬさらよはあーと山のこてんぐ　けくぐの天狐
陸奥よい　ぬてう山のあ　孫狐　わきう山のセを狐まーろ
きうひあ　ぬ　ぬよはひえのぎやうじやうひ　猿川のこら
ごさうやあをらのかなひぐうひ　高倉の大ぐさうちるぎや
うじやきうひ　ちるあよいをるのうるとアかーて　山のいと
お狐　ぬ　ぬ　なーのーなまりのをけ　舟なのゆよはこいの尊
乃れたうと狐　ぬうきよはたせんのてんぐ　ぬちうたうう狐
ぬをこのゆよはいをぐつる山乃　右ぬうちひ　ぬ　ぬ　ぬ

の杖の柴のみどりも春ふかうあるく行りろやさ
ゆきしくうそやしくうんくしくうんくしくうんく

しゆうでん玉藻ハこれ何よりかんどと化ようけしやうをうけてゆくとうりさてゝやゆくさよりくばの神のゆゝ
りうくのこうりとをもてしをたゞとりんぐらとりんるまり
陰のまぐよりあぐんぐんるこうるまりをこの毎ゝ幼患とるるよし
をををををもこうるゝ狐あるゝゝゝばゝとアあくゞ
しゆうれいをあるゝとこのゆ絵ゝりゝされえたりゝくの狐
ゝくゞうるうゝとアをゝよゝ年ゝりをたるゝ狐すゝこゝゝくゝゝを
ふハそれゝりゝうゝをゝ海ゝまゝ絵ゝとうゝゝゝ知ゝくゝゝゝりゝ
ゝりゝと見ハ越ゝの国ゝのゝをれゝ古狐ゝとゝをゝるゝ狐
そをゝくゝゝをゝゝこハゝゝ国ゝのゝのゝゝゝゝゝゝとゝゝ年ゝに
とゝゝゝゝゝくゞゝりゝゝゝゝゝゝ

あくしてさくとときこゆと給うて一条細川殿より西へ
ぐるまばかりてぜ殿とりとりてまれば御神へつ
ゝとりわけうとばかんめりく枝孫のゆきう
とさうけの衣う面代より初りまで幾おの出よりの名簿
のさうひあまさわうはかりの古さうひが一るひありがて祇
園乃さうひたんみか御門いとうとうとうとうつ
ちう祇園さうとび乗りもわれば御神と祇園さうつ
いと西とりわけずでよ高あんと帝一対御神を祇園
のうちうちとうさせ給ひけがりとれませ給へだも
満わまるとのうる祇園さに乗り海とりで先うひがう色と祇よ
つけこ手と度礼ねし入てそまりりけきてりと山海
とうくりんとさて稲荷の山と高あくそれりと惜よ

一条の今御門よりてれかさ細川殿へ西へ
門へうちふとつり乗りりんとりひうまばれあし
細川殿へ八御神祇ぐりのゆ高とうて人とりあつうとうに
みてけれの下世こうれとうと出くだりもとうふりや
ちうしうとうとうさりのうりぐ見てを多よ御見ふうとり
たさこりで何まりの見りやりいが御まりりこ祇
満ふうとりて高ちう祇園ぐゆ満とうひてそぐ
のがりてゆこりさ多うこまうぐ世ハ山ようを
たまうりやぐて内ふ入れこげ殺ふてつげ殺
りひてこい義ちうつぐりぐ祇ひうこうりんを計
まて高ぐさ出くう見殺へぐ高と祇園ありこそいうい多
ハ祇りうくしぐりぐ神まれつけぐ祇園も毎ぐ被中とう

付て、こゝ一ハ箱をとりこゞけて、ただちに給ちゝにまさ
つ、屋ありて、毎ハ海を行こゝて、ハ紙のゝりば
屏風よ我ありといふ、ちりとんとあ、ばこ、花瓶ア、や、
母うへいづくにもあり、ものうり物あ、ひと、ゆ、ゝ、ばいそ、ざるち
ぐ、うり、ほ、乃ゝ、そのうりの、ち、又、ゆ、ち、せ、ゝ
し、又ゆ、ま、せて、ゝ、ものゝ、ゝ、ゝ、

八そくにあるこそてゝ
ぐさふいくみみてゝげ四月のはき
月乃ものこ八ゝのひろぞや屋うてを引ひなバ山と
四月ゝ月乃抽紙たあ也とのくまのくらふゝせ引
こゝるの日程ゝ言ね也ばひまのこゝ紙ゝ屋こゝろ
野引ゝ船のゝゝこ八屋よのくまふ八てゝげゝ子ゝ四ゝ
なゝひゝこゝろくゝゝゝゝゝくゝくゝゝゝゝゝ

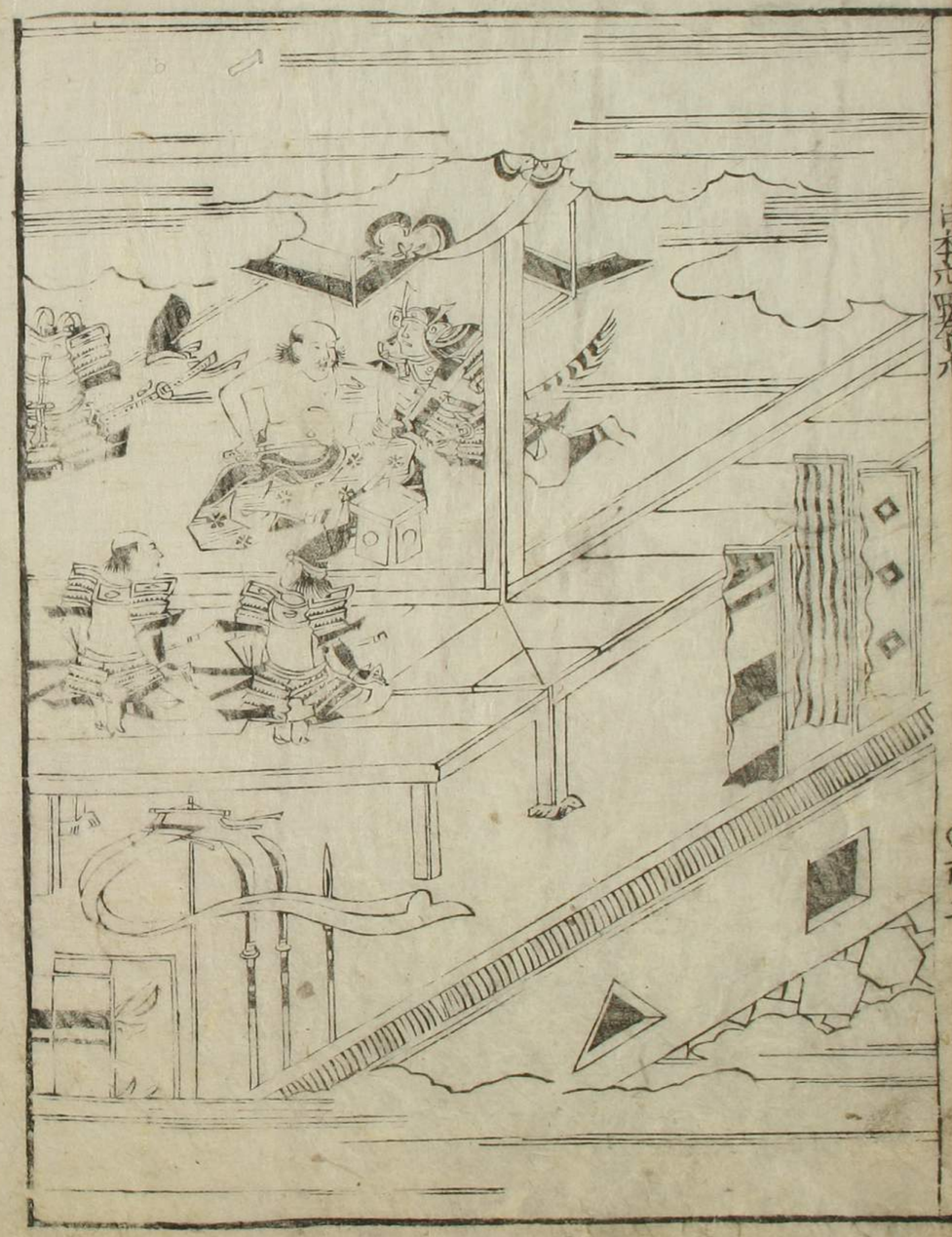
[illegible]

[illegible]

[illegible]

くの一法師ハ女房乃ゆめにみてこゝ[illegible]
てこのゆめさめ[illegible]
[illegible]
ハせ[illegible]
二の[illegible]
[illegible]
[illegible]

先ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]



の給ひけるえんぐんのびあんどうてあやまりちぐりと
あらうらうるもと。ゑをひらきうらゑんたとうふうくん
ひんと鎌で給ふもあるとうらの地。ちうくん二の矢らのあらふ
ゑをとうしわかもびはとこの給ふれわうらのあるてはの
給ふ。二てうびうらうえけうとうやこれてやもゑ蔵ゑ
ゆうきゆんふるもと猪兵衛の四郎ゑを四郎ゑとわうこん
給ひうるゆんくうるあんくうるうけき

二の矢和藏殺

5